

## 第十節 昭和七年

昭和七年度東京美術學校年報

甲 款

概況

昭和七年四月五日本科入學許可者ノ氏名ヲ本校内ニ揭示發表シ同月二十一日官報ニ掲載セリ

同年同月十二日新入生徒ノ入學式ヲ行フ

同年七月六日ヨリ九日ニ至ル四日間各本科三年七十二名圖畫師範科三年十四名富士瀧河原陸軍廠舎ニ行軍シ野營演習ヲ実施セリ

同年十月四日日本校設置記念日ナリシモ都合ニヨリ繰下ゲ十一月四日記念式ヲ行フ

昭和七年十二月二十四日午前九時ヨリ本校運動場ニ於テ各本科並ニ圖畫師範科生徒四百六十六名ノ教練查閱実施セラル

昭和八年一月八日午前十時ヨリ職員生徒一同講堂ニ參集シ新年授業始式ヲ舉行セリ

同年三月廿四日午前十時ヨリ本校第四十二回卒業式ヲ行ヒ例ニ依リ卒業製作並ニ圖畫師範科成績品ヲ別室ニ陳列シ來賓ノ觀覽ニ供シ翌二十五、二十六ノ兩日間廣ク本校關係者及有志等ニ觀覽セシメタリ

規程

昭和七年十二月二十八日勅令第三百九十五號ヲ以テ東京美術學校

專任職員ノ定員中助教「十九人」ヲ「十八人」ニ書記「七人」ヲ「六人」ニ改メラル

昭和八年三月七日日本校規則ヲ改正シ從來本科ハ日本畫、西洋畫、彫刻、建築、圖案、金工、鑄造、漆工ノ八科ニ分レ彫刻科ハ更ニ塑造部木彫部ニ金工科ハ彫金部鍛金部ニ分レ修業年限五年ナルヲ日本畫、油畫、彫刻、建築、工藝ノ五科トシ圖案、彫金、鍛金、鑄金、漆工ヲ工藝科ノ各部ニ改メ各本科ニ豫科ヲ置キ修業年限ヲ一年トシ本科ノ修業年限ヲ四年トセリ

入學資格ハ中學校卒業程度ヲ基準トセルヲ新ニ豫科ヲ設ケタル結果中學校四年修了程度ニ改メ又教員志望者規則中改正ヲ加ヘ從來日本畫科西洋畫科圖案科中ノ志望者ニ限リ教員タル課程ヲ兼修セシメシヲ各本科全部ニ及ボン研究生ヲ研究科ニ改メ修業年限ヲ二年トシ別科制特待生ヲ廃止シ其他學科目ニ變更ヲ加ヘタル等主ナル改正事項ナリトス

設備

圖畫師範科作業科設備費

本校圖畫師範科ハ専ラ師範、中學、高等女學校等ニ於ケル圖畫、手工、習字ノ担任教員養成ヲ目的トシ設置セラレタルモノニシテ年々二十名内外ノ該科教員ヲ全國中等學校ニ配當シツ、アリ然ルニ昭和六年二月中學校令ノ改正行ハレ教科目中新ニ作業科ヲ加ヘラレタル結果全國中學校ニ於テハ茲一兩年中ニハ該科教員ノ充實ヲ圖ルコト極メテ緊急ノコト、ナレリソノ爲カ卒業生中中學校ニ在ルモノハ作業科中工作ヲ担任スルモノ著シク増加シ更ニ本年度新卒業生配當ニ當リテモ作業科ヲ担任スベキ約束ノ下ニ就任

セル者増加セルノ現況トナレリ 是全ク本校師範科ノ卒業生ガ最モ作業科ノ指導者トシテ適任ナルコトヲ立證セルモノニシテ此ノ点ヨリ今ヤ圖畫師範科ニ於テハコノ新思潮ニ適應スルガ爲ニモ學科目ノ改善ヲ行ヒ作業科ノ教員ヲモ併セ養成スルコトガ刻下ノ急務トナレリ 而モ師範科ニ於ケル現在ノ學科目ハ圖畫ト手工ヲ主眼トセルモノナルガ故ニ作業科ヲ置クニ當リテモ從來課シツ、アル手工科ノ内容ヲ改善スレバ足り且ツ園藝ヲ兼修セシムルコトニヨリ該科ノ教員トシテノ実力ヲ附與スルコトヲ得ベク從ツテ經費モ比較的少額ニテ足ルノ利アリ 之ノ見地ヨリ次年度豫算ニ計上スルトコロアラントス 考慮ヲ垂レラレンコトヲ切望ス

### 職員

本年度ニ於ケル職員ノ數ハ學校長一人教授二十九人生徒主事一人助教十四人書記五人生徒主事補一人嘱託講師十五人同教員十四人同醫師一人副科嘱託三人教務嘱託二人事務嘱託二人教務雇四人事務雇十七人ニシテ前年度ニ比スレバ助教授ニ四人事務嘱託ニ一人教務雇ニ二人ヲ減シタルモ教授ニ一人嘱託教員ニ五人事務雇ニ八人ヲ増シ其他増減ナシ

### 生徒

全体ニ於ケル生徒ノ學力操行健康ノ狀態ハ前年度ニ比較シテ大差アルヲ認メズ 新入學生徒ニアリテモ大要亦同様ニシテ特ニ標學スベキ事情ナントス  
本年度新入學者ハ本科百二十八人圖畫師範科二十人研究生四十一人ニシテ其入學者ノ學力程度ハ本科生ニアリテハ官公立中學校卒業者六十八人私立中學校卒業者三十六人工業學校卒業者四人工藝

學校卒業者七人美術工藝學校卒業者二人東京美術學校卒業者二人商業學校卒業者八人私立大學豫科一年修了者一人ナリ 圖畫師範科ニアリテハ官公立中學校卒業者十二人私立中學校卒業者一人師範學校卒業者七人ナリ 研究生四十一人ハ何レモ本校卒業者ノ入學シタルモノトス

新入學生徒ノ年齡ハ本科生ニアリテハ最高二十七年四月月最低十八年一月月ニシテ平均二十年十一月ナリ 圖畫師範科生ハ最高二十四年最低十八年二月月平均二十一年ナリ 研究生ハ最高三十二年六月月最低二十三年五月月平均二十六年六月月ナリ

生徒ノ入退學ニ就テハ本年度入學者本科百二十八人圖畫師範科二十人研究生四十一人ニシテ再入學者ナシ 退學者ハ病氣退學十二人家事係累退學二十七人除名處分ノモノ二十四人死亡七人放校處分ニヨルモノ二人研究生在學資格消滅九人轉科一人アリ 之ヲ前年度ニ比較スレバ入學者ハ本科ニ七人選科ニテ三人研究生ニ五人特別學生ニ三人圖畫師範科ニ五人ヲ減セリ 退學者ニアリテハ病氣退學ニ六人家事係累退學ニ十四人死亡ニ一人放校處分ニ二人ヲ増シタルモ除名處分ニヨルモノニ五人研究生在學資格消滅ニ六人轉科ニ一人再入學ニ一人ヲ減ジタリ

生徒ノ員數ハ本年度末ニ於テ之ヲ前年度ニ比スレバ日本畫科ニ七人西洋畫科ニ七人建築科ニ一人圖案科ニ一人金工科ニ一人圖畫師範科ニ六人選科生ニ二十二名特別學生ニ七人研究生ニ三人ヲ減ジタルモ彫刻科ニ五人漆工科ニ二人ヲ増シ鑄造科ニハ増減ナシ 之ヲ綜合シテ全体ノ差引ノ結果ハ四十八人ノ減少ヲ示セリ  
右各科中日本畫科西洋畫科建築科圖案科金工科圖畫師範科研究生

ノ減少シタルハ募入人員ヲ減ジタルト前年度ニ比シ退學者ノ多キニ基キ選科生特別學生ノ激減ハ全然募入セザルニ依ル彫刻科漆工科ノ増加ハ前年度ニ比シ退學者ノ少キニ基因セリ

本年度ノ卒業生ハ本科百十三人選科十七人特別學生四人圖書師範科二十二人ニシテ計百五十六人ナリ前年度ニ比シ十人ヲ増セリ生徒中學術品行殊ニ優等ナルモノヲ選ビ本校規則第二十六條ニ依リ特待生トナシ昭和七年四月一日ヨリ一學年間授業料ヲ免除セシモノ三十一人アリ前年度ニ同ジ圖書師範科生徒ニハ前年度ニ於ケルト同一方法ニ依リ學術又ハ技藝ノ優秀ナルモノニ等差ヲ付シテ獎勵金ヲ給與セリ即チ昭和七年四月十八日同年十月十二日同八年二月二日同年三月十日ノ四回ニ同科生徒ノ競技會ヲ催シ其成績ヲ考査シ優秀ナルモノニ獎勵金ヲ付與セリ

昭和八年三月末卒業スベキ各本科並ニ選科生徒八十一名ノ實地修學ノ為本年度ノ初四月十三日ヨリ二十九日迄十七日間教授二名助教三名講師二名雇一名之ガ引率又ハ附添ニ任シ奈良京都和歌山ノ一府二縣ニ出張シ著名ナル神社佛閣等ヲ歴觀シテ美術上ノ實地研究ヲナシタリ

同ジク昭和八年三月末卒業スベキ圖書師範科生徒二十四名ノ實地教授法視察研究ノ為本年度初四月二十一日ヨリ三十日迄十日間助教二名之ヲ引率シ京都大阪愛知奈良ノ二府二縣ニ出張シテ視察研究ヲ為サシメタリ

本校ニ於テハ生徒皆通學ナルヲ以テ寄宿舎ニ関シテ申報スヘキ事項ナシ

將來施設上重要ト認ムル件

大講堂新設ノ件〔昭和四、五年度報告とほぼ同文につき省略。文末「西」洋画科及彫刻科の「西洋画科」が削除されている。〕  
彫刻科塑造教室新設ノ件

本校彫刻科トハ塑造、木彫兩部ノ合稱ナルガ元來塑造部ニ於テハ塑土ヲ以テ人体摸型或ハ諸種ノ原型ヲ製作スルノ術ヲ授ケ木彫部モ亦其基礎教育トシテ塑造授業ヲ課スルノ要アリ然ルニ現在塑造ノ授業ニ充用シアル教室ハ既ニ二十年前ノ建造ニ係リ當時ハ收容生徒モ少数ナリシ為不便ヲ感ズルノ程度モ少カリシガ近年彫刻科入學志願者ノ激増ニ伴ヒ其緩和策トシテ募入人員ヲ増加シタルノ結果最近著シク狹溢ヲ感ズルニ至リ完全ナル授業ヲナス能ハザルノ狀況ニアリ加フルニ其建物モ腐朽損壞シテ危険少カラザルニヨリ別ニ豫算ニ計上セル如ク此ノ際新築セラレンコトヲ希望スルナリ

圖書師範科ニ作業科ヲ設ケ修學年限ヲ四年ニ延長スルノ件

本校圖書師範科ハ専ラ圖書手工並習字ノ中等教員ヲ養成スルヲ目的トシタルモ近年中學校教授要目改正ノ結果作業科中等教員ヲ必要トスルニ至レリ然ルニ現今ノ中學校ニ於ケル作業科ノ授業ハ僅カニ手工科免狀ヲ有スル者又ハ博物科教員ヲ以テ便宜之ニ充ツルヲ以テ作業教育ノ不完全ナルヲ免レス茲ニ於テカ作業科教員ノ養成機關トシテ本校圖書師範科ニ作業科ヲ増設セントス即チ本校ニテハ作業教育ニ必要トスル工作方面ニハ工藝科建築科ノ施設アリ又園藝方面ニテハ本校ノ繪畫科教育ニ伴フ園藝場ノ施設アリ故ニ之等ノ諸設備ヲ改善利用スルコトニ依リテ完全ナル作業科教員ヲ養成センガ為別ニ計畫案ヲ具シ適當ナル豫算ヲ要求シ以テ之ガ実現ヲ期セントス次ニ在來ノ修業年限三年ニテ所定ノ教

課全部ヲ履修セシムルハ教授上ノ効果ニ於テ遺憾ノ点尠カラザル  
 ニ今又作業科ヲ増設センカ 到底師範科所期ノ目的ヲ達セザルガ  
 故更ニ一年延長シテ授業科目ノ充実ト師範教育ノ実績ヲ擧ゲシメ  
 ントス

女子共學ニ関スル件

近時女子普通教育ノ発達ニ伴ヒ高等女學校卒業者ニシテ本校ニ入  
 學ヲ希望スル向逐年増加スルノ傾向ニ在リ 然ルニ本校ハ法令上  
 女子ヲ入學セシムルコトヲ得ス 故ニコノ趨勢ニ應ジ高等女學校  
 卒業者並ニコレト同等以上ノ學力ヲ有スルモノヲ入學セシムルノ  
 途ヲ拓カンコトヲ要請セントス

雜件

生徒実験ノ資ニ供スルタメ諸所ヨリ依頼ヲ受ケ製作ニ從事シタル  
 モノノ中重ナルモノヲ擧グレバ左ノ如シ

依頼製作一覽

品目	数量	受託年度	竣工年度	依頼者
御紋章付銀製香爐	壹個	昭和七年度	昭和七年度	宮内省
鷹ノ置物	壹個	同	同	小松謙次郎
メンデホル	壹個	同	同	帝國學士院
記念賞牌	同	同	同	農林省
銀製花盛器	貳個	同	同	同
同上	貳個	同	同	同
同製花瓶	貳對	同	同	東京府内務部長
胸像	四個	同	同	産業組合中央會
參基	同	同	同	同

『東京美術學校校友會月報』記事抜粹  
 學校近事〔三〇—八〕<sup>卷号</sup> S・七・三・一〇<sup>年月日</sup>

○職員辭令

昭和七年一月廿五日

除服出仕

雇 利部房太郎

同 年二月一日

書記 增井 兼吉

給一級俸 依願免本官 文部省

同 年二月三日

教授 久米桂一郎

賜二級俸 文部省 依願免本官 内閣

教授 大島勝次郎

八級俸下賜 文部省 依願免本官 内閣

同 年同月六日

教授 島田 佳矣

教員檢定委員會臨時委員被免 内閣

同 年同月十八日

教授 鈴木 信一

助教授 松田 義之

講師 岡田 起作

教員檢定委員會臨時委員被仰付 内閣

○久米〔桂一郎〕教授 今年六十七齡の老境に達せられたるに拘は